

サイクル インフォメーション

かわら版

2016年1月号



発行元：地域本部
TEL:0175(71)2002

ホームページでも放射線の基礎知識などを紹介しています。



原子燃料サイクル施設の周辺環境における放射線の状況を把握するため、青森県および当社では、モニタリングステーション等による空間放射線量率の監視を継続的に行うとともに、さまざまな試料を採取し、分析・測定を行っています。

平成27年4月から平成27年6月の結果は、放射線の専門家や地元自治体・農漁協など各種団体の関係者等で構成される「青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議（評価委員会：平成27年10月30日開催、監視委員会：平成27年11月25日開催）」において審議され、「これまでと同じ水準であった。原子燃料サイクル施設からも影響は認められなかった」と評価・確認されました。

空間放射線の監視

環境試料の採取

分析・測定

施設やその周辺の放射線・放射能を常に監視しています。水や土、農畜海産物などの分析・測定を行います。

審議・評価、公表

青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議で審議・評価し、青森県広報誌、当社広報紙等で公表します。

column

がんリスクは比較できます

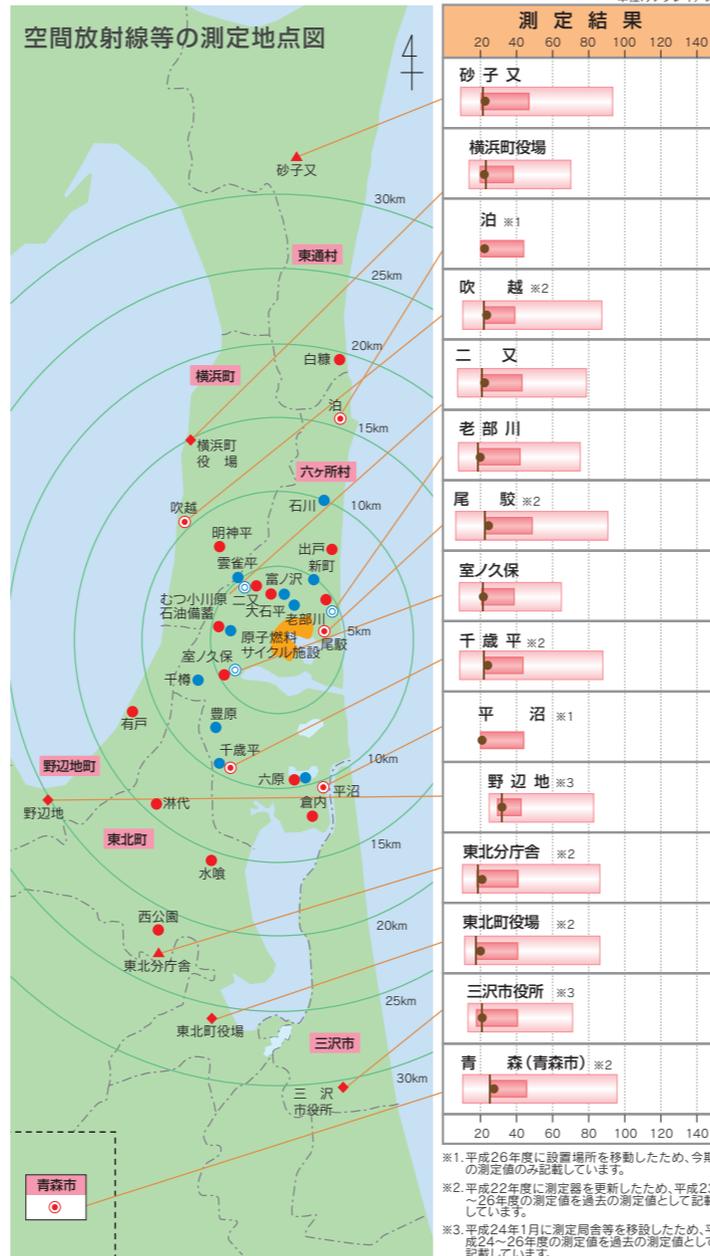
リスクを増やす要因	がんリスク
100ミリシーベルト未満の放射線を受ける	検出困難
野菜不足	1.06
100～200ミリシーベルトの放射線を受ける	1.08
塩分の取り過ぎ	1.11～1.15
運動不足	1.15～1.19
200～500ミリシーベルトの放射線を受ける	1.19
喫煙	1.6
毎日3合以上の飲酒	1.6
1,000～2,000ミリシーベルトの放射線を受ける	1.8

「100ミリシーベルト未満の放射線を受ける」のがんリスクは**検出困難なほど低い**とされています。

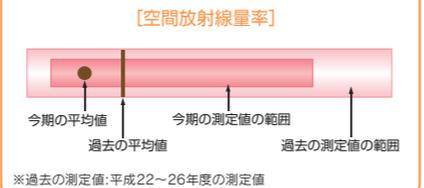
出典：独立行政法人国立がん研究センターホームページから作成 1)放射線リスクは、広島・長崎の原爆被ばく者の約40年の追跡調査からの固形ガン※リスクのデータ(※白血病以外のがん) 2)生活習慣リスクは、日本の40～74歳の地域住民を約10～15年追跡調査した全がんリスクのデータ

平成27年4月から平成27年6月の六ヶ所原子燃料サイクル施設周辺における環境放射線等の評価結果は「これまでと同じ水準であった。原子燃料サイクル施設からも影響は認められなかった」と評価されました。

空間放射線のモニタリング結果



グラフの見方



凡例

区分	県	事業者
モニタリングステーション及び積算線量計	●	◎
モニタリングポスト及び積算線量計	◆	◇
モニタリングポスト	▲	
積算線量計	●	●

環境試料中の放射能のモニタリング結果

